

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms
Dr. UZ

DIESLAID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KBC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
SUMITOMO CHEMICAL

本田鉄工株式会社

SAVANT
タイヤカーボンカゴ

Blue Goats
Capital

RACING PROJECT
BANDOH

『予選 2 番手からペースが上がらず、自分たちのレースを出来ない結果に』



シリーズ名：2023 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名：2023 AUTOBACS SUPER GT Rd.2 「FUJI GT450km RACE」

レース距離：1 周 4.563km×100 周（456.3km）

5 月 3 日（水）天候：晴／路面：ドライ

5 月 4 日（木）天候：晴／路面：ドライ

5 月 3 日（水）

公式予選：GT500 クラス 2 位：1:26.496

今日、明日と晴天の予報となっている富士スピードウェイで開催される第 2 戦。

開幕戦と異なり晴天の中、予選、決勝通してのドライセッションでの闘い、そして、450km という長丁場をどう乗り切るか、戦略がものを言う闘いとなる。

ホームコースである富士スピードウェイは、去年の第 2 戦、第 4 戦はいずれも予選はポールポジションを獲得している。得意のコースであるが、19 号車は予選を何位で通過できるか。

午前中の練習走行では途中赤旗が提示されたが、練習走行の進行に大きな支障が出る事無く、その中で 19 号車は決勝を見据えたタイヤを確認。ロングを中心に路面の変化とタイヤを確認しながら 1:28.238 のタイムを出し、9 番手となった。

午後からの予選は相変わらずの晴天の中、気温は 20℃、路温 32℃、湿度 54%、路面は完全



DRY となった。

Q1 のドライバーは国本選手。開始直後に 19 号車を含め、ほとんどの車両がコースに入った。予選 10 分間でタイヤに熱を入れるために周回を重ね、1:30.438 を出し、残り 1 分を切ったところでタイムアタックに入ると、戻ってきた国本選手は 19 号車を 1:27.240 と暫定 7 位をもぎ取る。各車タイム更新があるものの、暫定 7 位のタイムを上回るものは出ず、19 号車は Q1 を 7 位にて通過となりました。

Q1 の結果は 16-8-24-14-36-17-19-100-(以上 Q1 通過)-3-23-37-1-38-64-39 となりました。国本選手からのフィードバックで車両をアジャストして Q2 へ。

Q2 は阪口選手ドライブでのアタックとなる。Q2 開始直後にコースインした 19 号車のタイヤにじっくりと熱を入れ、1 分 30 秒台の周回を重ね予選時間いっぱい使った最後のアタックは 1:26.496 と、すでに暫定トップを取った 100 号車に 0.076 秒差と一歩及ばないものの暫定 2 位をもぎ取る。その後、各車アタックタイムを更新するものの、19 号車のタイムを上回るものが出ず、Q2 は予選 2 位を獲得する事が出来ました。1 位から 6 位までがコンマ 5 秒無い激しいアタック合戦となった Q2 の結果は 100 号車がポールポジションを奪取。2 位は 19 号車を取り、3 位以下は 16-14-24-36-8-17 となりました。明日の決勝は一系列目からのスタートとなりました。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

DISELALID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WellVets
— Animal Welfare Group —

KBC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GURTTZ CHRYSLER

本田鉄工株式会社

JOHNSON
タイヤレーシング

Blue Goats
Capital

RACING PROJECT
BANDOH

予選コメント

【坂東監督】



『フリー走行を考えると上出来の結果です。国本選手は流石でした。阪口選手には完璧な状態で運転させてあげられなくて、申し訳ないです。明日はチーム一丸となって全力で頑張ります。』

【国本選手】



『2番手でした。朝のフリー走行から車の調子が良くなって、占有走行でもタイムが出なく、不安な部分も沢山ありましたが予選に向けてチームと話合ってマシンセットを見直し予選に挑みました。結果7番手でQ1突破する事が出来ました。Q2に向けてコンディション変化を読み、内圧等をアジャストし阪口選手が2番手を獲得してくれました。どんどん良くなっているので明日は450km長いレースをチーム一丸となって戦います。今日はハッピーです。』

【阪口選手】



『フリー走行考えればマシンは良くなって、この位置は満足です。自分のアタックは1か所だけ気になる事があったので悔いが残るのですが良い位置からスタートできるので決勝頑張ります。去年は順位を落としてしまったので今年は最低表彰台を目指して、チーム一丸となって戦います。』

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

DISELAID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

MYRTA

WellNets
— Animal Welfare Group —

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GIBBITZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Quwaya
タイヤカーゴ

Blue Goats
Capital

RACING PROJECT
BANDOH

5月4日(木)

決勝：GT500 クラス 12位

予選に続き、素晴らしい天候に恵まれた富士スピードウェイで開催される第2戦。

今戦は前売りチケットが売り切れの満員御礼、観戦スペースの沢山のテントが開き、コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつあるサーキット。

二回の給油が義務となった450kmの長丁場のレース。富士での完全ドライでのロングランはテストを含めても今年初となるため、レース展開の予測が難しく、戦略の立て方が勝利への鍵を握る。

スターティングドライバーは国本選手。気温/路面温度/湿度が22度/38度/52%と予選よりは高いが、レース的には絶好のコンディションとなった。

13時半に静岡県警の白バイ/パトカーによるパレードラン、そしてフォーメーションラップでの周回を経てレースがスタートを切った。

スタート直後は大きく順位が入り替わること無く、19号車も2位をキープし、オープニングラップから戻ってきた。

トップの100号車から少し離れつつも、後ろから16号車、24号車からの追撃を受け、早くも2番手争いが勃発するが、2周目のダンロップコーナーの立ち上がりで16、24号車に立て続けに刺され、4番手に後退してしまう。

さらに、前の24号車から少しずつ間が空く中、後ろから8号車、36号車の4番手争いとなるが、5周目のメインストレートで19、8が横並びになったところから36号車とのスリーワイドでの1コーナー、36号車が競り勝ち、さらに1コーナーのインで8号車に刺されて6番手となってしまった。

9周前後で300クラスの車両に追いつき始めると、後ろの23号車との差が徐々に縮まると、14周目には19号車を先頭に13位の39号車まで4秒と等間隔、トレイン状態で周回を重ねていくような形となる。その均衡が崩れたのが、23周目の1コーナーにて3号車がインを刺し、前にできるものの、直ぐに19号車が刺して順位を戻すが、24周目すぐに19号車は1回目のピットに入ると、給油とタイヤ交換のみでピットアウトし、15番手で復帰する。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

RUTEK

Jms

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
- Animal Welfare Group -

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GLIBITZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

OjawaTire
タイヤカーチャンピオン

Blue Goats
Capital

RACING PROJECT
BANDOH

先行して数台が 20 周前半で一回目のピットに入る中、30 周目前後に続々と 1 回目のピットインに入る車が出てきて、アンダーカット戦略を取った車両とのピットを巡る順位の入替が激しくなる。全車 1 回目のピットが終了した 41 周目の 19 号車の順位は 8 位。

後続の 3 号車に徐々に迫られていたが、44 周目のメインストレートで横に出られ、1 コーナーでインを刺されて順位を一つ落とし 9 位となる。そのまま、1 分 31 秒後半で周回を重ねていくが、後ろの 17 号車が迫ってくると、53 周目の GR スーパコーナでパスされて 11 位となる。56 周目には後続の 1 号車に背後につかれるが、57 周目に 2 度目のピットに入る、ドライバーを阪口選手に交代、タイヤ交換と給油を行い、コースに復帰（暫定 14 位）。

周回数 2 / 3 を挟んでの各車ピットインが進む中、72 周目の 1 コーナーで後続の 16 号車にパスされ、暫定 13 位に後退する。79 周目に 24 号車がピットに入り全車が 2 度目のピットインを終了した段階での 19 号車の順位は 13 位。

レースも終盤となり、後続の 38 号車との差が徐々に縮まってきて、残り 7 周で 3 秒切るまで迫られる。

残り 5 周で 24 号車がトラブルでピットに入ってしまう順位が一つ上がる（12 位）が、その後順位を上げることなく、そのままチェッカーを受けることとなりました。

レースは、ポールの 100 号車が 2 位以下を引き離しにかかるが、序盤に 2 位の 16 号車が追いつき、2 台のランデブーが長く続いたが、1 回目の全車ピット終了時に 36 号車がトップに躍り出ると、後続を引き離しにかかる。2 度目のピットインの後順位が変わらず、終盤 2 位以下を 20 秒以上引き離してチェッカー。2 位は 100 号車、3 位は残り 5 周で一気に激しい 3 位争いとなり、それを制した 17 号車となりました。以下 14-3-37-23-39-1-16-8-19-38-64-8-24 となります。とても悔しいレースでした。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
- Animal Welfare Group -

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
QUALITY SERVICE

本田鉄工株式会社

Ogawa Fire
ファイヤースタジオ

Blue Goats
Capital

RACING PROJECT
BANDOH

決勝コメント

【坂東監督】



『正直、車に速さがありませんでした。ドライバーには本当に申し訳ない。ピットは大きなミスはありませんでした。また序盤に PIT に入れたのはトップとの差が大きくなり始めたので 24 周で決断しました。24 号車のペースを見る限り、まだまだ 19 号車には沢山の課題がありますし、もっとドライバーが攻められる車にしないとレースでは勝てません。今回は 2 日間で 8 万人以上のお客様が来てくれました。本当にありがとうございます。モータースポーツは元気だという事を世の中にアピールしていきたいです。またその SUPERGT で 19 号車が活躍している姿を皆様に次戦以降必ずお見せします。今回も沢山の応援ありがとうございました。』

【国本選手】



『スタートは良かったです。その後ペースを上げる事が出来ませんでした。チームでミーティングをして次から強い戦いが出来るように頑張ります。沢山の応援ありがとうございました。』

【阪口選手】



『国本選手からバトンを受け取りましたが序盤の映像と無線である程度、車のポテンシャルはわかっていました。後半スタントで追い上げたかったです非常に苦しい戦いでした。まだまだ改善しないといけないところが沢山あるのでチームで話し合って次戦に望みます。沢山の応援ありがとうございました。』



SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDOH

<http://www.bandohracing.com/>